

高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行
NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224
滋賀県高島市安曇川町上小川 225-1
藤樹書院・良知館内
電話・FAX 0740(32)4156

「次代を担う若者に
伝えたいこと」

高島藤樹会 理事 飯田 典子



私事ですが、母校の高島高校から大津市内の高校に異動し、そこで八年間勤務した後、再び母校に戻ってきました。今年で三年目になります。その間に大きく変わったことは、やはり生徒数の大幅な減少です。以前は各学年が十一クラスあり、全校生徒が集まると体育館の端から端まで生徒が並んでいて、足の踏み場もないような状態でした。現在は各学年が五〜六クラスになりましたので、当時の約半分の生徒しかいません。体育館のフロアの空いたスペースに、少し寂しさを感じるのも事実です。

一方、以前と変わらず、玄関から職員室に通じる廊下の壁には、中江藤樹先生の肖像画と、その教えを紹介するパネルが飾られています。それには、校章の背景の形が中江藤樹家の家紋である藤の花であることや、藤樹先生の教えである「致良知」「孝行」「知行合一」、そして「五事を正す」の簡単な説明文が紹介されています。これは、高島高等学校創立八十周年を記念して「藤陰会・心の教育基金」から寄贈されたものです。普段は私自身、授業の準備

や部活の指導等に追われるばかりで、流れるような日々を送っていますが、ここを通る時は常に身の引き締まる思いになります。

特に、さまざま場面です。特に関心があるのは「貌言視聴思」の五事を正しているか、と自問自答し反省する場にもなっています。

さて、母校は来年度の創立百周年を控え、大きく変わろうとしています。また多様性を認め重んじる時代の流れと共に、学校はそのあり方自体も変化を余儀なくされています。現在は、学校そのものが落ち着かない状況にあるとも言えるでしょう。そのような中であって、次代を担う若者に私が伝えたいのは、やはり変わらず私が子どもの頃に教わってきた、藤樹先生の教えです。例えば、「自分で考え、自分から行動を起こす」「人の立場に立つてものごとを考える」という教えを通して、私なりに、生徒の心を磨き、鍛えていきたいと思っています。

ところで先日、ちよつと嬉しいことがありました。私の母はよく自宅付近を散歩します。高齢になり、足



腰が弱っていくのを少しでも遅らせたいという思いから、朝夕の散歩を日課にしています。その日、私が仕事を終えて帰宅するとすぐ、母は私に次のように話してくれました。散歩の途中、家の近くにあるバス停の前の縁石につまずき、地面にへたり込んで、しばらく立ち上がれなかったそうです。そこへ一人の男子中学生が自転車を通りかかり、手を引く張って母が立ち上がる手助けをしてくれたそうです。「大丈夫ですか？家まで送りますよ。」と言われたそうです。母は、家はすぐ近くだから大丈夫です、ありがとう、とお礼を言って帰って来たそうです。名前も聞けなかったけれど、その優しい心遣いが、とても嬉しかったそうです。私も、この中学生の咄嗟の行動や、かけてくださった優しい言葉に対し、本当にありがたいと思いました。

もちろんこのようなことは、世の中のどこでも起こっている些細な出来事かも知れませんが、ですがこの中学生の姿勢には、ご家庭、学校の先生方、そして周囲の方々から連綿と伝えられてきた藤樹先生の教えが根底にあり、必然的に現れるものなのではないでしょうか。そして、それが「高島プライド」として、次の時代、その次の時代の子どもの心に受け継がれていくことを心から祈っています。